第８回臨時委員会会議録

教　育　長　）　　開会宣言

教　育　長　）　　会議成立の宣言

教　育　長　）　　会議録署名委員の指名（河盛委員）

教　育　長　）　　それでは、審議に入ります。

はじめに、日程第１、報告第６号「令和７年度全国学力学習状況調査の報告について」を議題とします。

提案説明を求めます。

学校教育課長）　　〈議案資料に基づき概略説明〉

教　育　長　）　　説明が終わりました。質疑はございませんか。

河 盛 委 員 ）　　中学３年の理科だけ評価方法が違うのですが、なぜこの方法を取ったのかと、芦屋市の全国平均に比べてプラス１９は、ほかの「良好」や「極めて良好」と対比すると、大体、どれぐらいに当てはまるのかを教えてください。

学校教育課長）　　中学校理科についてはタブレットを使ったテストになっております。日にちがそれぞれ変わることで、問題も実は変わっています。受けている隣の子とも問題が若干違っており、これが今回のタブレットを使っているところになります。

ですので、これまでだと同じ問題を同じようにしますので、平均正答率での比べ方ができるのですが、今回はそのような比べ方ができないことがまず１点です。このＩＲＴスコアは、問題が違う中でもこれぐらいの難易度とする中で平均を、基本、全国では、今回は５０３となってしまったのですが、５００をベースにした上で、それよりもいいか悪いかで、この１つの位

置がこれまでのものと比べようがなくて、問題がそもそも違うところで、なかなか答えになっていないかもしれませんが、そういった値であると認識いただければと。

河盛委員）　これは、今回初めて。

学校教育課長）　今回初めてです。

河盛委員）　ほかには、どんなところに使われているものですか。

学校教育課長）　今までの学校教育の中では、私の認識では、使っていないという答えで、ほかでと言われると、私のほうでは分かっていないといったところです。

教育長）　国でも実験的な取組かなと思っていて、もしかするとだんだん算数や国語にもなっていって、先々は大学入試や高校入試がこんな感じになるのかもしれません。

河盛委員）　個人の方針にかかわると、問題が違うのに点数が下がってしまうのは強引なやり方かと思いますが、こういうテストだと、あくまで子どもがどういう理解をしているかを知るためのものだから、別に問題が違ってもいいと思います。入試などに使われると、あまりにも不公平になってしまう。

学校教育課長）　大きくというよりは、一定同じような問題ですが、たしか難易度が若干、最初に解いた問題で、この子が例えばできなかったら、次、それよりも簡単な問題が出る、そこでなるとは聞いているのですが。

極楽地委員）　ＡＩのように変わるのですか。

学校教育課長）　そうですね、状況によって変わる。平均正答率で、全部比べることができないと聞いています。

教育長）　今回、どんなふうに国が、今回のものを評価しているかが

また出てくると思います。

学校教育課長）　今回も国の、言い方は悪いですが、国や他市町が出している方法で芦屋市も表記したので、今後、これがどんどん変わっていく、出し方としてこれが適切かどうかも、市としても考えないといけないと思います。

教　育　長　）　プラス１９という。

学校教育課長）　そうですね。兵庫県の中で出ているところと比べると悪いかもしれないなと思います。この理科に関しては課題がある。

学校教育担当部長）　でも、一応平均よりは高い。

学校教育課長）　全国平均よりは高いのですが、県がどれぐらいだったかは忘れましたが。

教　育　長　）　もともと自治体の競争とかではないので、世界的な学力の中で、こういう問題は解けていたほうがいいのではないかということが問題になっているわけで。それを誤答しているのなら、授業を改善しなさいということですね。

河 盛 委 員 ）　今回、点数はともかく、中学の理科に対する意識が、皆、ネガティブなものが多いのですが、それについてはどう思いますか。小学校はそうでもないですね。理科に関しては、中学になると、一気に理科にネガティブになるのですが、これについてはどういう分析をされますか。

学校教育課長）　全てを調べたわけではないですが、中学３年生が、ちょうど小学５年、６年、中学１年、２年、コロナをずっと経ています。経験というか体験、実験は、小学校は、多分、この子たちはできてないような時代を過ごしている状況も、一つの原因にあると思います。

また、それぞれの学校や授業の取組をいろいろしていかなければいけない。やはり理科は、とても体験というか実験がすごく大きなところがありますので、そういった経験が不足していたりということは、一つ原因に上げられるのではないかと、こちらとしては考えております。

河盛委員）　ただ、例えば何年か前と比べて低いのだったら分かるのですが、全国に対してかなり低いですね。例えば理科が得意だとか、全国は「５０」なのに芦屋「４２」です。「理科が好きだ」は全国「６３」が芦屋「５５」、理科の授業がよく分かる、全国「７１」が芦屋「６３」という具合に、他市、全国に比べても大分低い。コロナなどの条件は一緒のはずなのに、その辺はどうお考えか。

学校教育課長）　その辺、今後の課題として、理科の教科等研究部会だったり、そういった部分は取り組まないといけないと思うのですが、授業の改善です。どれだけ自分たちの生活とリンクして考えられることを仕組んでいるのか。ただ単に、一辺倒の一斉授業ではなくて、子どもたちが興味・関心を持てるような手段だったり、本当に基本的な。

中学校でもいろいろと取組はされていると思うのですが、現状、こういう結果が出ていますので、そういったことをもう１回洗い出して、やっていかないといけないと認識しております。

河盛委員）　理科は高校だと、例えば生物などについては全く違う教科になっていますが、中学では１人の教員の方が全部教えておられる。多分、その人は、例えば私は生物が得意だけど、物理は

それほどでもない、逆はあるかもしれないですが。そういう調査みたいなものはしていないですか。

学校教育課長）　先生一人一人は、私では確認はできてないのです。とはいうものの、中学校の免許は理科が全教科、どうしても高校になると化学や物理などに分かれるのですが、そういう意味ではどの先生も同じようにはできているのだろうとは思うのですが、ただ一方で、何度も繰り返しにはなりますが、この結果を今後、学校がどう生かしていくかが重要かと思っておりますので、この部分に関しては、また、校長会等でもお知らせしたり、教科等研究部会も使いながら、どのように考えていくのかは、課題を持って取り組んでいかないといけないと考えております。

極楽地委員）　今のお話で、小学校はたしか理科の支援員が６年生を教えていらっしゃると思っていたのですが、違いますか。

学校教育担当部長）　理科の先生、サポートの先生はいるのですが、教えるのはあくまで教員が教えていて、一緒にサポートしてくれたり、注意してくれたりという人はいます。

極楽地委員）　理科の支援員は、サポートという感じですか。

学校教育担当部長）　理科はチューターではなく、推進員と呼んでいます。

学校教育課長）　理科推進員で、実験の準備等を、負担、担任に代わってするところがありますので。ただ一方で、ここ２年ぐらいで、兵庫型学習システムで理科の専科の先生がなるように、全校ではないのですが、学校によって教科は変えられますので、そこで理科の専科の先生が専門のときに教えている学校もございます。

極楽地委員）　算数のチューターの先生と勘違いしていて、理科の先生が娘からもいると聞いていたので、それは理科推進員や専科の先

生ですね。小学校６年生は専科の先生が理科を。

学校教育課長）　理科支援員とは別に、理科の専科を配置している学校もあります。

教　育　長　）　５・６年生での配置が比較的多いですね。

極楽地委員）　５・６年生がいらっしゃる学校は見られるということですね。

学校教育課長）　見られますね。いる学校といない学校とあります。

極楽地委員）　小学校と中学校の先生方の交流ですが、専科の先生と中学校の理科の先生は、特に市内で研究会などされていることはないのでしょうか。

学校教育課長）　そうですね。特に、理科に関してはそういう交流という形はないのですが、ただ県も理科の専科教員、こういう配置を考えて今進めているところなので、理科の先生に対して、研修等、これは打文からも１名、県の研修を受けた者が中堅という位置づけで、専科の先生と一緒に研修するなど研究を進めていく体制は取っているところです。

極楽地委員）　理科も今後は継続で毎年学力をはかると思いますが、市内の小学校で専科の先生がいるかいないかで差があることも先程お聞きしましたので、市内で公平性といいますか、平準化で、先生同士でも研鑽が積めるような体制になればいいと思いましたので、よろしくお願いします。

学校教育担当部長）　理科は３年に１回になっています。英語と理科が３年に１回になっているので、今年もあるのですが、今度、３年後かな、令和１０年ぐらいにあるのではないかというところです。先ほど委員がおっしゃるように、本当にそういう形で研鑽が積

めるような場所は、これは引き続きつくっていかないといけないと思っております。

極楽地委員）　よろしくお願いします。

三宅委員）　５ページの、「教科の学習に対する子どもの意識の変化」ですが、去年に比べて結構下がっているということで、これは子どもたちが学習に対して前向きというか主体的にできるように、今、学校もいろいろ工夫されていると思うのですが、それなのに結果がこうなってくるということは、どう考えたらいいのかと思いまして。どうなのでしょうか。

学校教育課長）　取組としては、委員がおっしゃるように主体的にというところで、この部分、これからやっていかないといけないことで、昨年度からずっとやっているのですが。昨年度したのは、いわゆるＯＮＥ　ＳＴＥＰｐｅｒｓを中心に、今、それこそこのＯＮＥ　ＳＴＥＰｐｅｒｓ、昨年やったことがどんどん学校の中で広がっている現状です。なかなか、この数値がすぐにというところにはいけないのですが。ただ一定、クラスだったり、その学校のところだけを抽出して見ると、比較的、そういうところは見られるとは思っております。

ただ、それはごくわずかというか、なかなかできてないところもありますので、それがいい感じに各学校で広がっていけばいいかと思いますので、今後はＯＮＥ　ＳＴＥＰｐｅｒｓだけではなくて、広く周知していけたらと思っております。

三宅委員）　分かりました。これからということですね。

学校教育課長）　そうですね。

三宅委員）　あと、７ページの「自分自身に関すること」、「他者との

かかわり」、「学校や先生に関すること」、この学校の先生に関するところが去年から、全国平均よりは低いのですが、去年に比べてぐっと全部上がっているのが、これ見ていて、先生方、すごく努力されて、子どもたちと信頼関係もできてきている現れだなと思いながら。これはすごいことだなと思って、私自身、すごくうれしく感じて、見ていました。

ここから、今度はＯＮＥ　ＳＴＥＰｐｅｒｓの取組が各学校に広がっていくと、本当、これからいい結果になっていきそうという感じが個人的にしています。

学校教育課長）　本当にありがとうございます。

一方で、繰り返しになりますが、「間違えたところや、理解していないところについて」、とことん「分かるまで教えてくれている」、この項目の質問に対して、子どもたちが友達で解決できていたらいいのですが、そうでなくて、本当に何も解決しないまま終わってしまっていたら、それは全然違うので。この辺は気にしながら、引き続きやっていかないといけないなと思っております。

三宅委員）　ありがとうございます。

河盛委員）　今のところ、ひょっとしたらお子さんは、塾の先生と比べている可能性があるのではないか。塾だと教えてくれるのに、学校だとそこまで教えてくれないとか、そういうものがあるのかなと僕は思いました。

芦屋の子どもで、一見、ネガティブな評価になっているところで、例えば中学で学習に対する意識は下がっていますが、だけどよく考えてみると、小学校は大体高いです、どの教科も。

中学は、国語は高い。数学と理科は、例えば授業で学習したことは将来役に立ちますかということに対して、大分下がっているのです。

よく考えたら、小学校の知識は生きていく上で必ず必要ですが、中学校の知識は必ずしも全ての人が必要ではないです。因数分解が分からなくても、別に生活に困らない人が過半数です。物理が分からなくても、大多数の人はどうもない。その辺を、むしろよく分かっているのかなと、芦屋の子は賢いのではないかと。

例えば、将来の夢を持っているのも、芦屋は低いと言われています。小学校の段階で、中学校の段階で、将来、何になりたいと決まっている人は、実際は少ないと思います。よく幼稚園の卒業式のときに、将来、何になりたいですか、そんなもの分かるわけない。だから、分からないのが当たり前であって、別にこれを高くする必要は全くないと思います。

中には、中学で将棋の棋士になると思っている人もいるかもしれませんが、みんながそういう必要はないと思う。

極楽地委員）　フレキシブルですね。

さっき、三宅委員のお話で御説明いただいた、ＯＮＥ ＳＴＥＰｐｅｒｓの先生は、今回、小学校６年生と中学校３年生の先生で何人ぐらい、ＯＮＥ ＳＴＥＰｐｅｒｓのメンバーの方がいらっしゃるのですか。

学校教育課長）　すみません、数字を持ち合わせていないので、何人かはいると思うのですが。ただ、４月の頭ですので、どちらかというと小学５年生や中学２年生のときのほうが、質問紙に影響する

と思うので。

極楽地委員）　昨年度の。

学校教育課長）　そうです、というところと。

極楽地委員）　兼ね合いもありますね。

学校教育課長）　そうですね。だから、そのときがという感じではないです。

極楽地委員）　学校教育課長から、何度かＯＮＥ　ＳＴＥＰｐｅｒｓの効果の資料をいただいたことがあって、４月と秋などを比較すると、かなりＯＮＥ　ＳＴＥＰｐｅｒｓの先生のクラスのグラフが大幅に、随分数値が上がっていることがあったので、逆に根拠としては強いなと思うので。それが生かせれば、今後、いいなと思います。学校内、学校間で縦横展開、しっかりできればいいなと。すぐには難しいと思うのですが、ワンステップ一歩ずつ広がっていけばいいなと願っています。

またその辺り、評価がたまってきたら分析をしていただけたらと思います。

学校教育課長）　そうですね。

教　育　長　）　２ページに「調査結果の公表について」とあります。これで行くと、国・県・本市も公表してきた学校の公表のスケジュールとしては、１０月頃でしたか。

学校教育課長）　今後の予定、今日、この教育委員会がありますので、その後に、学校の個票をそれぞれ子どもたちには返すところと、これが終わって以降、１０月というよりは、今日、８月２８日より後に、それぞれの学校は返却してくださいということで、既に準備は進めています。

教　育　長　）　学校の中でもこうして、国で言うと「序列化や過度な競争

につながらないように」もそうですし、一番、市で言えば、教育実践の改善に反映していくことが大事なので、そういう意味では、同じように学校の中でもこういった分析が、みんなのいわゆる見立てで、しっかり子どもの姿でされることを同時に促していただけたらと思います。

もう１点。先程から出ている７ページの自分自身、他者との関わり、学校や先生に関する、Ａ、Ｂ、Ｃの領域で分かれたと思うので。ずっと数字を追っていったら、確かに全国には届かないですが、令和５年からすると右肩上がりで、おおむね。将来の夢は置いておきまして、いわゆる安心な心理的安全性といいますか、人とのかかわりの中でとか、先生の中の意識が、こういうふうに上げているのかと思っていて。

これも、ここに注力し過ぎると具合が悪いのですが、子どもたち、どんなふうに過ごしやすいかとか、どうしたらこの子はこの課題に取り組むか、先生の心砕きみたいなところがつながっていると思っています。ここは、校長会の場などでもうまく皆さんに評価していってあげたらどうかと思うのですが。校長先生を通じて伝えることになってしまいます。

下から３番目の、「先生が分かるまで教えてくれる」は、むしろ自分で選び、自分のペースでといった自由進度的な学びが進んでいくと、子ども同士でやって解決していくので、もしかしたらここの数字は、周りが上がれば上がるほど、先生を頼らなくても済んでいる可能性があるのは見てとれるので、ここはずっと追っていくとおもしろいと思っています。

逆に、渋谷区や目黒区、加賀市もそうですし、名古屋市もこ

んな取組をしているので、そこの学校がどうか比べてみたら、実は同じような傾向かもしれないと思っていて。別に、先生はいなくてもいい、いい意味で。自分たちでできるという意味で。ありかもしれないと思っています。経過を追ったほうがいいと思っています。

これは数値が上がっていくと、また変にプレッシャーですね。全国平均には届かないけど、芦屋の中では地道に取り組みを進め、少しずつ成果が顕れてきている。今までいかに低かったか、ということで、それはこどもたちがいかに安心しながら学習に取り組んでいるかということを示す好材料かと思います。

極楽地委員）　細かい話になりますが、娘から３年ほど前、中学校３年生のときに、英語のヒアリングのテストの際に、設備の調子が悪く、よく聞こえなくて点が取れなかったと落ち込んでいたことがありまして。今はそういうことはないのでしょうか。どこか報告など上がってきていますか。

学校教育課長）　まず、本年度、英語のヒアリング調査は何もなかった、芦屋市ではなかったです。その年、いろいろとトラブル等があって、録音ができないところもありまして。その後に、ある中学校で経年でのヒアリング調査があって、そのときには指導主事もいて、大きなトラブルはなかったと聞いております。昨年ぐらいだと思います。

極楽地委員）　設備で差があると、その状況によって点数が落ちることによって、子どもたち、割とシビアに受け止めるので、ないようにだけ、よろしくお願いします。ありがとうございます。

教育長）　他に質疑はございませんか。

無いようですので、これをもって質疑を打ち切ります。

それでは、報告第６号「令和７年度全国学力学習状況調査の報告について」の報告を受けたものといたします。

教　育　長　）　　閉会宣言